

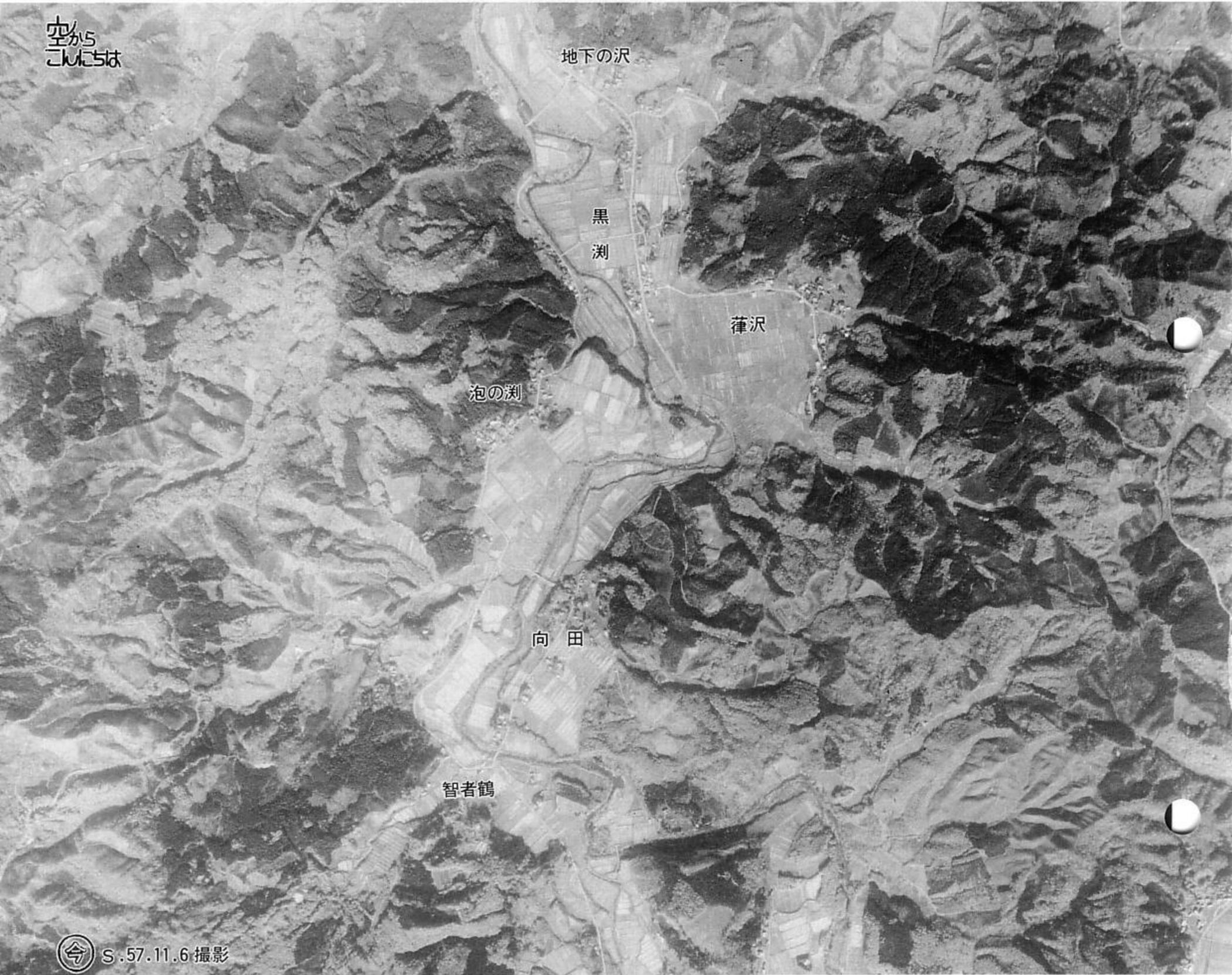
東由利町報

4月

昭和58年

No. 337 昭和58年4月1日発行 編集・発行 / 秋田県東由利町役場企画財政課 毎月1日発行

空から
こゝには



今 S.57.11.6 撮影



昔 S.49.10.17 撮影

10年間に交通網一変

町の南部、雄勝部羽後町と隣接する黒淵地区。高瀬川をはさみ、県道羽後向田館合線と並行して、石高を起点に大橋場、泡の淵を通って智者鶴に至る過疎農道石高線が走っている。同線は、昭和四十八年から、八カ年の歳月と二億五千六百八十八万円が投じられ、本町では初の農道整備事業として、全額国と県の負担で改良舗装された。

五十五・五十六年の二カ年にわたり、黒淵葎沢間が団体営農道整備事業として整備されたほか、町道松台線、地下の沢線、明通線等も舗装整備され、地区内交通網は十年前と一変した。現在、泡の淵から八塩山腹を縫うボツメキ林道開設工事が進められており、広大な八塩山麓の産業、観光開発の面からも、一日も早い完成が待たれている。

地区内水田は、県営圃場整備事業や山振特開事業、単土地改良事業等により、ほとんど整備されている。五十三年には、二次農構の特枠事業として、黒淵に研修集会所「八塩館」が建設され、地域拠点施設として産業、文化、生活の向上に活用されている。

五十六年度から着工される出羽丘陵開発事業には、周治谷地(智者鶴)と大森(葎沢)両地区合わせて二十二ヶの草地造成とともに、付帯する農道の整備が計画され、地域農業の振興発展に大きな期待が寄せられている。

農業基盤整備事業を柱に

58年度 当初予算は22億2千5百万円 一般会計

三月定例議会

町議会第三回定例会が三月十一日に招集されました。予算議会とも言われるこの議会では、町長が行政方針を、教育委員長が教育方針の発表を行い、向こう一年間の町政執行の考え方を明らかにしました。今議会には、五十八年度各会計予算案のほか、工場誘致条例の制定、職員の定年等に関する条例の制定、収入役の選任など、二十三議案が上程され、いずれも原案どおり可決。また、小松(与)上ノ山地区土地造成見積等調査特別委員長の審査結果報告、小松(豊)温泉開発調査特別委員長、川尻工業導入調査特別委員長から中間審査報告がなされ、それぞれ委員長報告どおり承認。三月二十三日、会期を一日繰り上げて閉会しました。

町長の行政方針、一般質問、可決案件などの概要を八面にわたって掲載します。



行政方針を発表する小松町長

昭和58年度予算案と行政方針

昭和五十八年度予算案を提案し、行政方針を申し上げます。最初に申し上げます。八月が私の任期で、この時期までには投資的事業は概ね実施さ

れるものと考え、通年の予算案を編成したしだいです。

予算案の総額は、二十二億二千五百三十七万三千円で、昨年比一・三%増です。

歳入

歳入の主なものを申し上げますと▽町税一億六千四百四

十七万五千円▽地方交付税は当初に八億八千九百六十六万四千円を計上しましたが、最終的には九億一千三百万円、特別交付税四千五百万円と想定してあります▽繰越金四千万円▽財産収入二千九百六十六万二千円▽基金繰入金一億二千二百万円▽町債三億四千四百万円▽国庫・県支出金五億二千五百九十八万円―です。

歳出

主要な事項を款を追って申し上げます。

・総務関係

本年三月末をもって、総務課長小松耕之助君、産業経済課長畑山良一君が、後進に道を開くため、勇退することになりました。補充人員を公募

しましたところ十五名の応募があり、この中より三名合格、二名を採用することにしてあります。

・農林水産業関係

本町は、農業基盤整備事業を町政の大きな柱としています。四十九年に着工しましたが、五十八年度をもって大部分の工事は完了する予定です。

総事業費二十八億六千六百万円。五十八年度は▽用水路・排水路舗装十一ヶ所▽道路舗装一・二ヶ所▽耕地搬入十一ヶ所▽事業費一億七千万円(工事費一億五千万円)―を要望しています。

本町の水田には、二十九分の整備不能地があります。これを除くと整備率が九八・三%に達しています。

農業基盤整備事業は、圃場整備事業の外に▽農道▽ミニ総パ▽モデル▽土地総▽防災―と、五つの事業を本町は現在行っています。

町予算に計上されていない

・民生関係

社会福祉費において、老人保健法との関係を申し上げます。老人保健法会計は、予算の七〇%が国民健康保険事業勘定特別会計と各社会保険から拠出され、これが支払基金を通して歳入となります。それに、国庫より二〇%、県と市町村がそれぞれ〇・五%ずつ拠出されて構成されます。こ

県営事業を申し上げます。

・農免道路軽井沢線は、舗装

千七百八十四坪、法留工等、計七千二百万円を要望し、五十八年度をもって、根小屋線を含めて十一・二ヶ、工事費十二億五千四百四十八万円が全線が完成されることとなります。

・広域関連農道八沢木線は、

五千万円を要望。

・山村基幹農道新沢線は、三

千五百万円を要望。

・開拓地整備事業八塩線は、

三千万円を要望。

県営防災事業大吹川地区は、全事業費四億五千八百七十万円で、五十八年度は三千三百万円を要望しています。

町営の残事業を申し上げますと▽ミニ総パが一億七百万円▽土地総が一億九千七百五十六万円▽モデル事業が十六億三千七百万円▽町営農道大台線が一億五千四百万円―となっております。五十八年度

・衛生関係

老人保健関連事業費が新設され、皆検診費は、この中に吸収されています。簡易水道特別会計への繰出しは、過疎債償還に当たっての交付税の算入分、及び一時借入分利子と、補助又は起債対象外事業分です。

の事業内容は、予算書で御承知願いたいと存じます。

ご案内のように、土地改良事業は、かんがい排水、開拓を基本として展開されましたが、現在は、農村の生産基盤と農村環境を一体的に整備を図る農村総合整備事業の制度となっております。

前記のような事業によって本町は、全地域にわたって事業がネットされ、農業の生産性向上、土地と水資源の開発確保、定住環境の条件が整備され、活力ある農村の基盤づくりが現在なされています。すでに六十五億が投資され、現時点において実施予定が三十八億円です。第二次産業も、これら整備された農村基盤の上に展開するものと考えます。一般的農業振興策は、過日の農業総合指導センター部門協議会の検討をふまえて予

算計上してあります。

林業について申し上げます。外材の圧力、低材価という環境にあつて、国は、民有林の振興に諸施策を打ち出しています。これへの対処と国産材時代に対応する、将来を展望した施策が焦びの問題となつてきています。

本町の民有林の林野面積は九千三百四拾、人工林面積四千五百七十八拾、蓄積量が四十九万立方メートルあります。蓄積量から言いますと、市を除い

土木関係

予算書によって大部分がご理解いただけると思いますが、二、三申し上げますと、道路台張が整備され、その委託料を計上しました。道路新設改良費は、昨年に比べ約三千万円増額し、除雪機械一台の更新の予算を計上したと思います。

公共事業を予想される範囲で申し上げます。

一〇七号線蔵工区は、五十八年度に改良三百八十拾、舗装二千四百五十拾を完了し、十月末までには全工区が完成します。本町の動脈である一〇七号線の整備が大きく前進したと思います。用地提供者の皆様をはじめ地元関係各位に、これまでの協力に對しまして深く感謝申し上げます。

て全県順位七位です。

差し当たつての課題は、森林組合の活性化です。

森林組合は、現在、一人立ち出来ない構造を持つていて、国は、秋田県全域の森林組合の活性化を、森林組合を通して行われますので、森林組合の能力に、町は関心を持ちついで、本予算案に補助金として百五十万円を計上しています。

町直営林の状況は、人工造林地四百六十七拾、蓄積量は二齡級以上三万九千六百七十

五十八年度に山内と横渡間の調査が行われて、改良路線が決定されます。

神岡坂部横渡線は、中の沢地区六百八十拾の舗装をもつて、長期間の課題でありましたこの事業も本年で由利管内全事業が完了を見ることになりました。

仁賀保矢島館合線は、畑中地区改良三百拾、石高地区改良三百八十拾の事業予定です。山崎鳩屋十文字線は、本年度から公共事業に採択され、柴倉地区二百三十拾の改良の計画です。

この路線の公共昇格が長年の懸案でしたが、今度実現しました。

県代行西山線は、改良百八十拾と橋梁下部工を合わせ八千七百万円を要望しています。金山線は、舗装を行い、五十八年度をもって全線の改良

二立方メートルとなっています。

桐は、昭和四十三年以降二百三十九・一六拾に六万八千九百九十五本が植栽されました。これは、秋田県全域の割合を占めています。

私は、本町の林業の特徴は農・林・畜産とバランスの取れた中にあることだと思います。林業の専業地では、地域が林業経済のみに依存する弱点があります。本町は、経済、労力のバランスが取れているのが強味だと思います。足りないのは、意欲、技術であり、

舗装が終了することになります。

檜淵横渡線は改良と舗装、横手東由利線は舗装が実施されます。

教育関係

以上が建設関係の概要です。蔵老方小学校建築費は、四億三千三百三十八万四千円を計上しました。校舎面積は、二階建二千三百九十三平方メートル、文部省基準面積より二百八十一平方メートル増です。建築費単価は、八塩小学校請負額単価で計算しました。校地造成費、庁用備品費は概算です。消雪後、現場調査のうえで補正案を提案したいと思います。

開校は、明年四月一日を予定しています。体育館は、同時施行を考え、本予算案に継続費を提案しています。

商工関係

これらを振興する施策を行うことによつて、本町は将来、有力な林業地帯に成長出来ると思えます。

商工会に、運営費補助金として百五十万円、会館補助金として三百万円を計上しました。会館補助金には議論のあるところと考えますが、商工会は、いま陣痛の中にありますので、これを機会に具体的な発展に機動することを期待するものです。

水

道拡張事業は五十八年度、四億八百万円の計画で事業費を要望し、予算提案をしています。

出

羽丘陵開発事業は五十八年度、東部地区全体で九億円の予算がつかまりました。

現

在、町勢を概観しますと、道路改良、農業基盤整備、義務教育施設整備等、構造的行政需要に取り組みできました。これからも、これからハードな需要は続くものと思ひますが、反面、町民生活の身近にあるソフトなものに対する期待が多くなると思ひます。これらに対応するため、町としては、単なる担当部門だけでなく、行政全体にわたつて検討が必要と考えます。このため、職員質の向上とともに、町民各層の協力

山

村振興計画は、昨年度計画書が出来ています。が、短期間での作業のため、さらに今後議会の皆様と検討し、本年九月までには正式の決定をしたい考えです。

工

業導入は、軽量の知識集約型の産業が秋田空

を願うものであります。幸い、昨年、町民会議が持たれましたことは、今後の町民の意識向上、精神的な文化面、町勢の進展に対する意欲等に、大きな成果が得られるものと期待するものです。

昨年は冷害が懸念されましたが、幸い、各農業生産共、まずまずの状況でした。本年は、順調な天候を期待し、農家の皆さんのご努力を祈念します。商工業におきまして、不

港を中心にして発展する気運

と従来の縫製、電子、機械等の事業の選択、そして、本町の立地と労働力の質等が課題です。情報を交換しながら促進を図つていく考えです。

季

節労働は、不況下の事業縮小の影響の対策が必要で、健康と子弟の教育環境等に、さらに配慮の必要があると考えます。

改

めて申し上げるまでもなく、現在、地方自治体の財政事情は、ひっ迫、硬直しています。

今後の補正財源について申し上げますと、当初予算案の地方交付税交付金と最終見込み額の差額分、及び計上した繰越金四千万円と決算後の実質繰越額との差、これが補正財源となるわけです。

況下ながらもたゆまないご発展のご努力、また、地元能力の掘り起こしに對するご努力も期待する所です。

私の任期満了も間近で、進退に関する表明をする時期を考えなければならぬと思ひますが、諸般の事情から今会期中でなく、今後の機会に表明したい考えですので、ご理解を賜りたいと思ひます。

以上をもつて、予算案の概要と行政方針を終わります。

〈表1〉 一般会計・歳入の状況

区分	予 算 額	構 成 比	前年度比較増減	町民1人当たり額
合 計	22億 2,537万 3千円	100.0%	2,789万 5千円	354,415円
自主財源 (19・4%)				
町 税	1億 6,447万 5千円	7.4	1,155万 8千円	26,194円
分担金及び負担金	2,385万 6千円	1.0	879万 1万円	3,799円
使用料及び手数料	628万 9千円	0.3	△ 181万 9千円	1,002円
財 産 収 入	2,910万 6千円	1.3	84万 8千円	4,635円
寄 付 金	1万円		0	2円
繰 入 金	1億 2,201万円	5.5	3,001万円	19,431円
繰 越 金	4,000万円	1.8	0	6,370円
諸 収 入	4,620万 7千円	2.1	410万 3千円	7,359円
依存財源 (80・6%)				
地 方 交 付 税	8億 8,966万 4千円	40.0	△ 3,758万 1千円	141,689円
県 支 出 金	2億 2,468万 9千円	10.1	853万 6千円	35,784円
国 庫 支 出 金	3億 40万 9千円	13.5	△ 7,551万 2千円	47,844円
町 債	3億 4,040万円	15.3	7,960万円	54,212円
地 方 譲 与 税	2,539万 6千円	1.1	△ 117万 7千円	4,045円
自動車取得税交付金	1,285万 2千円	0.6	53万 8千円	2,047円
交通安全対策特別交付金	1万円		0	2円

〈表2〉 一般会計・歳出の状況

区分	予 算 額	構 成 比	前年度比較増減	町民1人当たり額
合 計	22億 2,537万 3千円	100.0%	2,789万 5千円	354,415円
議 会 費	5,131万 3千円	2.3	341万 6千円	8,172円
総 務 費	2億 3,478万 1千円	10.5	758万 7千円	37,391円
民 生 費	1億 4,194万 2千円	6.4	△ 2,723万 8千円	22,606円
衛 生 費	9,394万 4千円	4.2	2,973万 9千円	14,962円
労 働 費	529万円	0.2	20万 4千円	842円
農 林 水 産 業 費	4億 6,654万円	21.0	3,627万 6千円	74,302円
商 工 費	1,379万 5千円	0.6	185万 1千円	2,197円
土 木 費	1億 8,324万 4千円	8.2	4,334万 5千円	29,184円
消 防 費	9,537万 7千円	4.3	668万 5千円	15,190円
教 育 費	6億 2,920万 7千円	28.3	△ 3,257万円	100,208円
災 害 復 旧 費	1,472万 4千円	0.7	△ 7,078万 2千円	2,345円
公 債 費	2億 9,008万 7千円	13.0	4,322万 7千円	46,199円
諸 支 出 金	112万 9千円	0.1	△ 47万 5千円	180円
予 備 費	400万円	0.2	0	637円

注……町民1人当たり額は、2月28日現在の住民基本台帳登録人数(6,279人)で除算したものである。

58年度
一般会計

町財政史上初の交付税
比年減

町税負担は十四分の一

一般会計二十二億二千五百三十七万三千円——四月から向こう一年間の町の台所を賄う昭和五十八年度予算が決まりました。前年に比べ、額にして二千七百八十九万五千円、率にして一・三%の増となっています。

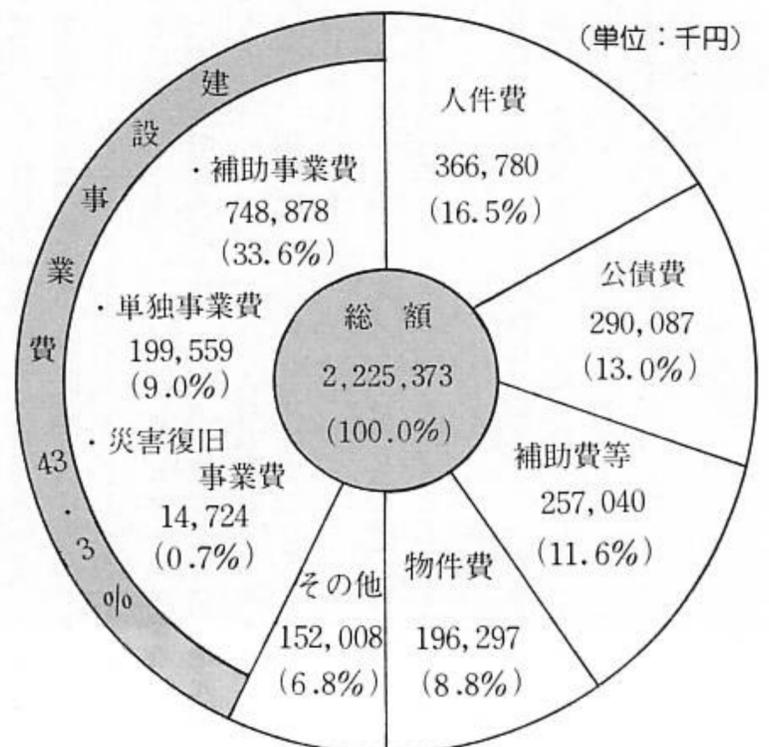
新年度予算は、長びく経済不況による税収不足、行財政改革の推進などの国の苦しい台所事情が地方財政にも大き

く影響し、地方交付税の減額、公共事業の抑制など、数年来なかつたほどの厳しい環境の中での編成となりました。

編成に当たっては、経常経費の節減に努めるとともに、生産、生活ともに快適な東由利の建設のため、産業基盤や道路網の整備、住民福祉の向上、教育の充実等、町勢全般に配慮しました。

以下、歳入と歳出予算の概要について紹介します。

〈性質別予算の状況〉



58年度特別会計予算の状況

町には、一般会計のほか独立した六つの会計があり、それぞれ町民の皆さんの便宜を図るための事業を行っています。これを「特別会計」と言い、国の補助金や税金、使用料、手数料、一般会計からの繰入金などで運営されています。

国民健康保険

国保加入者の医療費の七割を始め、助産費(十万円)や育児手当金(一万円)、葬祭費(三万円)、高額療養費(五万一千円を越える分)の給付などが、この会計で行われています。

黒淵地区住民の健康保持・増進のために経営されている同診療所の医療費、施設管理費などが主なもので、町の開業医が交替で毎週木曜日の午後、診療にあたっています。

老人保健医療

七十歳以上(寝たきりの場合は六十五歳以上)の人の、一部負担を除く医療費

東由利水道、大琴水道、大袖水道(大吹川・神山)の、

簡易水道

《昭和58年度・主な事業の実施計画》

区分	事業名	事業費	事業の概要
○民生費	老人居室整備資金貸付	5,000	5戸
	身障家庭奉仕事業	1,421	社会福祉協議会に委託
	老人家庭奉仕事業	2,842	〃
○衛生費	健康づくり推進事業	7,202	推進協議会の開催
	清掃推進事業	545	不法投棄啓蒙活動
	老人保健関連事業	29,776	健康診査
○消防費	消防施設整備事業	18,557	積載車、防火水槽
○農林業費	生活改善推進事業	246	推進グループ育成など
	水稻生産対策事業	3,122	地力増強、土壌調査、種子対策など
	産業道路整備事業	5,000	改良10件、維持20件
	野菜類二次加工推進事業	945	加工施設整備
	家畜導入事業	22,765	
	出羽丘陵開発事業実施推進	2,865	
	ミニ総パ 農道整備	30,704	宮ノ下線・鳥台線改良
	〃 農地保全	19,796	宿地区暗渠排水
	土地総(宮上)農道整備	25,250	石滝線改良
	〃 (法内) 〃	35,530	直道線、中ノ沢線、鞍骨橋改良
	農免農道整備事業	8,238	軽井沢地区舗装
	山村基幹農道整備事業	1,609	玉米地区改良舗装
	広域関連農道整備事業	7,456	八沢木地区改良
	開拓地農道整備事業	1,509	八塩地区改良舗装
	団体営農道整備事業	38,380	大台地区改良
	モデル事業 農業集落道整備	28,124	下小屋線改良、向山線、寺田湯出野線舗装
	〃 農道整備	14,296	松台線改良
	〃 営農飲雑用水整備	56,560	大吹川、袖山地区
	良質材化促進事業	2,596	作業道開設2km、枝打促進70ha
	特用林産振興対策事業	3,010	桐新植、保育助成
	間伐促進対策推進事業	5,244	105ha
	森林総合整備事業	224	
	造林事業	14,118	保育158.45ha、新植8.65ha
	林道新設改良事業	16,953	ボツメキ林道
	林道改良事業	11,334	土場沢線
○土木費	道路新設改良事業	76,678	改良6路線、舗装3路線
	除雪ドーザー購入	21,000	
○教育費	学校建築事業	357,374	蔵老方小校舎、給食施設、設計
	統合校備品購入	21,700	給食、庁用備品
	校地造成工事	10,990	造成、地質調査
	校地等購入	43,000	
	大平スキー場整備事業	31,400	圧雪車、リフト購入
○商工費	地場産業振興対策事業	1,210	
○災害復旧費	河川災害復旧事業	14,424	

入 歳 四〇%が地方交付税 自主財源は一九・四%

歳入の状態は、「表1」で示すように、自治体を運営していくうえで最も基礎となる町税は、前年に比べ千五百五十五万八千円増の一億六千四百四十七万五千円で、全体のわずか七・四%にすぎません。

最も大きな割合を占めているのは地方交付税で、全体の四〇%にあたる八億八千九百六十六万四千円、前年比三千七百五十八万一千円の減となつています。

地方交付税が前年に比べ減となったのは、町財政史上初めてのことで、交付税に次いで大きいのが、各種事業への補助金がほとんど

の国庫支出金・県支出金合計

自主財源は一九・四%

わけて五億二千五百九万九千円で、全体の二三・六%を占め、前年比六千六百九十七万六千円の減となつています。

道路整備や学校建築、公有林整備などのために町が借り入れするお金、町債は、三億四千四百万円を計上、一五・三%を占めています。

このほか、財政調整基金からの繰り入れ金一億二千二百万円、五十七年度決算剰余金からの繰り越し金四千万円を見込んでいます。

歳入予算総額の中で、町の財政力を示す自主財源、いわゆる、町税や負担金、使用料など町が自主的に収入するこ

出 歳 四三・三%が投資的経費 教育費に六億三千万円

とのできる財源は、四億三千九百九十五万三千円で全体の一九・四%。残り八〇・六%は、なんらかの形で国や県に依存する財源となつています。

歳出状況は、「表2」で示すように、蔵老方小学校建築費を含む教育費が最も多く、全体の二八・三%にあたる六億二千九百二十万七千円となつています。

次いで、農林水産業費の四億六千六百五十四万四千二百

いほど強いこととなります。本町の場合、普通会計の財政状況を見る地方財政状況調査によりますと、五十五年度から五十七年度までの三カ年度平均財政力指数は〇・一五で、県内六十カ町村中、五十番目という低い位置にあります。

%で、前年比三千六百二十七万六千円の増。町の借金に対する返済金の公債費が二億九千八万七千円で、全体の一三%を占め、以下、総務費、土木費、民生費、衛生費、議会費の順になつて見えます。

一方、性質別に見てみます

大平スキー場 町営大平ヒュッテやロープトウ、夜間照明など、大平スキー場の施設管理、運

予算額 四四五、〇七六千円

玉米財産区 同財産区有の山林(広葉樹林二七一畝、針葉樹林十八畝計二八九畝)を良好に維持管理するためのものです。 予算額 一、二四〇千円

予算額 一、二四〇千円

と、普通建設事業費と災害復旧事業費を合わせた投資的経費が、全体の四三・三%にあたる九億六千三百六十六万一千円で、前年に比べ一千五百二十万六千円の減となつています。これに対し、人件費、物件費、公債費、補助費等の義務的、經常的経費は、前年に比べて三・五%増の十二億六千二百二十一万二千円となつて見えます。

このように、經常経費の自然増、行財政改革の推進などから、地方財政構造は年々厳しくなつていくものと予想されますが、町では、予算執行に当たり、以前にも増して創意とくふうを凝らし、健全財政を堅持しながら事業の緊急性や公共性を見極め、多様化する住民要望に答え、住みよいくことに努めています。

案件 工場誘致条例を制定 小野収入役を再任

今議会で可決された昭和五十八年度予算以外の議案の概要は、次のとおりです。

【東由利町工場誘致条例について】

企業の誘致促進と既存企業の振興により、優良な雇用の場の拡大を図るため、町内に工場を新設又は既存の工場を拡充する者に対して奨励措置を講じることができるとし、適用企業の指定基準▽奨励措置の期間―などについて定めた。

奨励措置としては▽工場用地の取得、工業用排水施設の整備、労務の充足、工場立地資料の作成など、工場設置に必要な事項についての協力▽工業生産設備に対して賦課した固定資産税相当額を限度とした奨励金の交付―がある。

【収入役の選任について】

三月十四日をもって任期満了となる収入役に、小野丹左衛門現収入役を再任した。小野収入役は、東由利町税務課長から昭和五十年収入役



小野収入役

に就任。三期目。宿字六沢二十一番地の三。六十五歳。

【固定資産評価審査委員会の委員の選任について】

三月三十一日をもって任期満了となる委員一名に、長谷山誠一郎氏（老方字老方八十八番地、六十九歳）を再任した。

【財産の取得について】

蔵老方小学校建設用地として、法内字宮の前地内の田、畑、原野、道路、水路、合わせて一七、三四二・四〇㎡を取得することにした。

【町道の廃止について】

【町道の認定について】道路台帳の整備に伴い、町道の再編認定をした。

【林道の設置及び管理に関する条例を廃止する条例について】

林道に関する条例を廃止し、今後の維持管理は、規則により行うことにした。

【町簡易水道事業設置条例の一部を改正】

水道拡張整備事業の施行に伴い、東由利水道給水区域の拡大、及び大吹川・袖山地区水道布設事業により、当該地区を新たに給水区域に設定した。

【町火葬場の設置及び管理に

関する条例の一部を改正】

火葬場の使用料を次のとおり改めた。五十八年四月一日から通用される。（カッコ内は現行）

- 一、死体（一体につき）
 - ・ 15歳以上 三千元（千五百円）
 - ・ 6歳以上15歳未満 二千元（千円）
 - ・ 6歳未満 千円（五百円）
- 二、胎盤
 - ・ 一胎につき 五百円（三百円）

【町黒淵診療所使用料等徴収条例の一部を改正】

五十八年二月一日から老人保健法が制定され、新たに老人診療報酬点数が制定されたことにより、本条例の関係部分を改正した。

【災害弔慰金の支給及び災害援護資金の貸付けに関する条例の一部を改正】

根拠法律の改正により本条例の一部を改めたもので▽災害障害見舞金の支給制度新設▽災害弔慰金の増額▽災害援護資金貸し付け限度額の引き上げ―が主なもの。

【職員の定年等に関する条例について】

地方公務員法の規定に基づき、職員の定年等に関し必要な事項を定めた。定年は満六十歳とし、定年退職日は、定年に達した日の

属する年度の三月三十一日とした。

本条例は、昭和六十年三月三十一日から施行するとして、【五十七年度町一般会計補正予算（第十一号）】

歳入歳出予算の総額に、それぞれ千八百六十三万一千円を追加し、歳入歳出それぞれ二十三億九千五百十三万円とした。

歳出補正は▽八塩小学校建築費減額一千七十二万七千円▽営農振興費補助金五百万円▽保育所児童措置費補助金百二十一万七千円▽退職手当組合特別負担金千六百六十六万二千円▽積立金千七百八万円▽観光絵ハガキ作成費八十五万円―などが主なもの。

【五十七年度町国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第三号）】

歳入歳出予算の総額に、それぞれ二百五十六万九千円を追加し、歳入歳出それぞれ四億百三十八万三千円とした。

歳出補正は▽高額療養費二百三十万円▽財政調整基金積立金二十六万九千円。

【五十七年度町簡易水道事業特別会計補正予算（第四号）】

歳入歳出予算の総額に、それぞれ百九十八万八千円を追加し、歳入歳出それぞれ三億一千七百四十四万八千円とした。歳出補正は▽東由利水道本管移設工事費二百六十七万七千円▽館合水道本管移設工事費百六十万一千円▽償還金利、

一般質問 (要旨)

議員定数削減に 対する考えは

五十嵐宗憲議員

〔質問〕 厳しい財政事情、人口減などの現状を考えると、議員定数の削減を図るべきでないか。町長の見解は。

〔答〕 財政対策として考えられないこともないが、住民意志の代表ということの基本であり、議会自体が主体となる問題でないかと考える。執行の立場から意見を迷えることは、早計と考える。

〔質問〕 今年行われる町長選挙について、住民の間ではさまざまな憶測が飛びかっているが、現職としてまた町の指導者として早期に態度を表明すべきでないか。

〔答〕 (行政方針参照)

〔質問〕 老方バイパス十字路（マルサカソーイング前）の手動信号機を自動信号機に替えるよう、関係機関に要請してほしい。

〔答〕 本庄警察署を通じて県公安委員会に早期改善を要望している。正式回答はまだなので、実施時期は明言できない。

〔質問〕 中学校の給食に

ついて町長は「小学校統合の目どが立ってから」と答弁してきているが、今議会で統合校建築予算案が可決されれば、六月議会で補正を提案し、早期に実現する考えがあるか。

〔答〕 その年の義務教育予算については、事前に協議しておかなければならない。五十八年度に実現することは、事務手続き上、無理と考える。

〔質問〕 除雪オペレーターは、毎年同じ人が雇用されているが、その条件は。先ごろ、病気で倒れた人がいたようだが、健康管理について、日ごろどのように指導しているか。

〔答〕 オペレーターは、特殊免許を持ち、かつ経験のある健康な男子を雇用している。期間は十一月十五日から翌年の四月十五日まで、一年ごとの契約となっている。除雪という作業内容から、毎年新しい人を雇用することは、作業能率、地域的機械の配置などからしてどうかと考える。

健康管理については、午前三時から稼働した場合、実情に合わせて適宜休憩時間を取らせている。また、先の事故後、役場保健婦による健康管理指導、助言につとめているが、今後さらに、管理指導に力を入れていきたい。

〔質問〕 役場二階会議室の

子減額三百七十五万円 —
などが主なもの。

【五十七年度町大平スキー場
運営費特別会計補正予算(第
一号)】
歳入歳出予算の総額から、
それぞれ四百二十四万三千円

陳情等

〔付託事件に係る審査報告〕

○総務財政常任委員長報告

・北朝鮮帰還の日本人妻の安否調査及び里帰りに関する意見書提出について……採択すべきものとした — 採択と決定。

○教育民生常任委員長報告

・し尿処理手数料の改訂についてのお願……不採択すべきものとした — 不採択と決定。

を減額し、歳入歳出それぞれ一千三十六万七千円とした。

歳出補正は▽賃金減額四十五万七千円▽賄材材料費減額三百十六万六千円▽光熱水費減額二十五万九千円 — などが主なもの。

【専決処分報告について】

・ボツメキ林道開設工事請負契約の変更契約
・町立大平ヒュッテ新築工事(建築本体)請負契約の変更契約

○産業建設常任委員長報告

・老方集落に流雪溝を早急に設置していただきたい……県土木事務所、町建設課長の立会いのもとで現状調査をしてきたが、主水源となる大堤の水量が厳冬の渇水期にどう



陳情審査報告をする
小野(作)教民委員長(上)
と川尻産建委員長(下)

意欲あふれる町に

58年度
予算審査
総財委員長報告(概要)



予算審査報告をする
長谷山総財委員長

総務財政常任委員会に付託された五十八年度各会計予算は、内容については関係常任委員会との連合審査とし、当局の説明を求め慎重に審査し

た。
一般会計予算が前年比一・三%の増にとどまったことは、現下の財政事情の厳しさを端的に表わしたものと考える。そうした中で、予算総額の約二〇%を占める蔵老方小統合校の建築、また老人保健事業、出羽丘陵農用地開発事業、第三期山振計画策定などの新規事業は、町民の要望に答えようとする積極施策として大

いに評価すべきと考える。なかでも、統合小建築は、町三校統合の仕上げとして、当局、教育委員会、議会と共に長い歳月の努力の結集である。町民と共に喜びとするものである。これまでの学校統合へのエネルギーが、今後、産業振興のエネルギーになることを期待する。
歳入については、例年伸びて来た交付税が、ついに四・二%減となり、そのために、財政調整基金からの繰り入れを前年比三二・六%増、起債三〇・五%増やして財源確保している現状である。

なるか、今年は暖冬なため十分な調査データが出ていないことなどからして、さらに継続審査したい — 継続審査と決定。
・下通地内交通安全施設整備と後町未改良部分の改良舗装促進について……採択すべきものとした — 採択と決定。
〔その他・採択したもの〕
・昭和五十八年度畜産物政策価格等に関する要請(東由利農協長小松慎一ほか)
・その他・継続審査としたもの
・老人保健法による医療・保健事業実施にともなう陳情(秋田の医療と福祉をよくする会)
・高額療養費の受領委任方式の実施を求める陳情(秋田県医療労働組合協議会)
・優生保護法の「改正」に反

歳出における公債費は年々増え続け、前年比一七・五%増で予算全体の四・四%を占めている。五十九年度以降二億五千万円の起債を想定すると、五年後には比率が危険信号の二〇%を越えるものと見込まれる。
こうしたやりくりのため、年間補正財源も誠に厳しく、基金取り崩しも予想されるところであり、当局におかれては、健全財政運営に一層の努力を望む。
以上総体的に申しあげたが、五十八年度各会計予算は、慎重な審査の結果、原案通り可

決すべきものと決定した。
審査の過程でそれぞれ指摘事項を述べてあるので、十分配慮するよう望むと共に、特に次の事項を申し上げる。
〔二款・総務費〕
○八塩総合開発について
県立自然公園については、調査の結果、指定を受ける条件がおおむねそろっていると判断する。また、県の施設の設置についても可能性が多岐であり、当局においては、現状の計画を作り、八塩山周辺を観光の拠点とし、八塩の大自然を活用する総合プロジェ

照明が暗くて、雨の日や雲りの日などは資料が読みにくい。明るくできないか。
〔答〕 分電盤の容量、配線などの関係もあり、専門家に検討していただき、光量を増やすようにしたい。
〔質問〕 有鄰館の集会室は、天気の良し悪しに関係なく電気がつけっぱなしと なっている。節電の意味からも創意工夫、配慮すべきでないか。
また、中庭の美化、利用につとめるべきではないか。

整備計画があるか。
〔答〕 冷・暖房の関係から室内を比較的暗くして使用しているようだ。有料利用の場合、窓等を開けて使用されるようにと無理には言いかねる場合もあり、部内で検討したい。
中庭の利用については、さまざまな利用案があるが、町民体育館建築、周辺空き地の利用、全町的行事の際の慢性的駐車場不足などを考え合わせ、総合的に検討しなければならぬと考える。
・用水確保のお願いについて(大琴自治会代表者佐々木一郎)
以上二件は、産業建設常任委員会に付託。

(次のページへ続く)

(前のページから続く)

○いこいの森管理費について
それなりの予算計上がされているが、観光の一環として、ダムにフナ等を放流しいこいの場として広く住民に開放するなどの利用面を考えてはどうか。

〈八款・土木費〉

道路新設改良費に、改良・舗装の計画をしているが、町単独事業で改良する集落道もあり、用地解決が早く出来る場合は、集落道を優先施工されたいとの意見も出たので配慮されたい。

〈十款・教育費〉

1、教員住宅は、長期的展望にたつて管理運営すべきであり、一層工夫されたい。
2、三校統合の仕上げとして蔵老方小の統合が実現した。校地の決定が一月二十七日と遅れ、調査がすべて春に持ち越されており、本予算に計上されていない整備事業としてかなりの額が予想されている。大琴、八塩小の教訓を生かしながら、通学の問題、駐車場、用具保管庫など、十分配慮の必要がある。
敷地周辺に残されている民有地(田んぼ)は、全体構想

も考えながら、買収の方向で検討されるよう要望する。
3、統合終了後のスクールパスの運行を含む通学、遠距離通学対策を十分研究されたい。
4、県派遣社会教育主事が中止されると聞く。派遣されているうちに、社会教育主事の養成をし、配置することとなっているが、なされていない。早急に対策を立てると共に、臨時等も含め、最低でも前年並みの体制を維持するよう要望する。

工夫のうえ、健全運営に配慮されたい。

黒淵診療所
特別会計

五十七年度利用実績が著しく低下している。運営について検討を要する。

以上であるが、審査の全体を通じて、町当局と議会の情報伝達が多少不足しているとの指摘があり、当局におかれは、情報を適切に交換し、もって、議会、町民の理解と合意を深めつつ、意欲あふれる東田利町に築きあげることが期待して報告とする。

大平スキー場運
営費特別会計

人件費の割合が高い。研究

特別委審査報告 (概要)

上の山地区土地造成見積等調査



小長 特別委員
報告を
査報(与) 松

して出頭させ、造成費の内容について調査した。

興和測量では、町から示された統合校地候補地及び道路整備計画案、いわゆる、仕様書八項目により、費目、工種別、細別、数量等を測量設計。単価は、県の三部協定単価表、県土木部発行の積算基準及び標準歩掛表によって算出したとの説明を受けた。

特別委員会設置が議決された二月二十六日、委員全員でスケジュールを協議したあと、町助役、建設課長を呼び、当初の造成費五億四千六百万三千円の内容について説明を受けた。

三月二日には、設計者の興和測量合名会社社長伊藤弘一氏と助役、建設課長を証人と

三月七日には、「なつとく」のゆかない会」の会長、副会長に出頭を求め、同会が二月九日付で町内に配布したチラシについて▽不明朗な採決とは、いかなる考え方か▽入手

したという町の設計図は、どの程度のものであったか▽一億五千二百二十二万一千九百二十五円の見積りの内容、会社名、所在地、代表者名等一を質した。
これに対し、副会長の長谷山誠明君、小松俊太郎君とも「帰って、会に諮っての後でなければ答えられない」との答えであった。会長の佐々木源次郎君は、医師の診断書の写しを添え、病体のため歩行困難、言語不明瞭の理由で欠席の届出があり、さらに、当日朝、カゼが併発したとのことで欠席。
こうした経過を経、町の提示見積額となつとくのゆかない会が某建設会社から入手したとされる見積額の妥当性の

調査は、同会が某建設会社名等を明白にしないことによつて、架空のものとの推定せざるを得なくなった。
このような状況下でさらに調査を継続するとするならば、地方検察庁に告発する方向を取らざるを得ない。
新年度予算には、蔵老方小統合校建築予算が計上され、ただ今議決された。統合は、日を追って現実のものとなっている。かかる中で、この問題を継続調査することは、過去の問題にいつまでもとらわれて、町政の停滞を招くことが懸念される。本調査は、大局的な判断に立って終了すべきであると、全会一致で決定した。
以上報告する。

町健康大学を閉校

56人に修了証交付



健康大学最終回——伊藤副院長の講話に耳を傾ける受講生

去る七月から実施してきました町健康大学の閉校式が三月四日、有鄰館で行われました。

この健康大学は、系統的に継続した衛生講座を実施し、健康に対する意識の高揚とより積極的な健康増進を図り、健康で明るい郷土を築きあげようと、六回にわたって開講したものです。

応募受講生は、四十代、五十代のお母さん方が中心。毎回、各分野の専門家を講師に迎え、

最終回のこの日は、由利組合総合病院副院長の伊藤政志先生の「脳卒中予防について」と題する講話のあと、三回以上受講した五十六人に、町長から修了証が交付されました。

飛び出しの

一歩の足が事故を呼ぶ

・家庭では、家族が交通事故にあわないよう、起こさないよう「交通安全会議」と「ひと声運動」を実践しましょう。



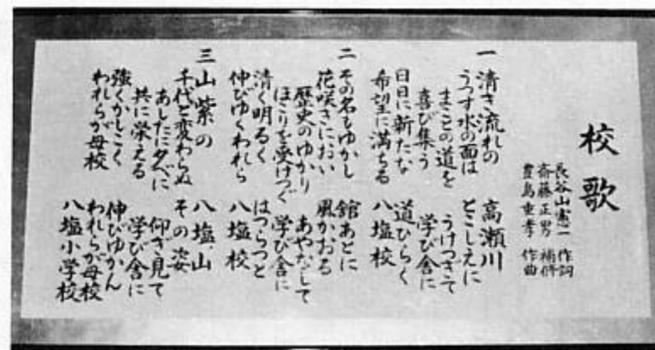
ぼくらの校歌が出来た

八塩小で盛大に発表会



校歌完成の喜びを胸に、声高らかに発表する八塩小児童

「清き流れの高瀬川……」
昨年四月に発足した八塩小学校に待望の校歌が完成し、三月九日、作詞、作曲者をはじめ児童、教職員、父兄、来賓



合わせて約二百五十人が出席して校歌発表会が行われました。同校では、一期生をなんとか新しい校歌で送り出してやりたいと、昨年七月、地域、父兄、教職員の代表者三十人による校歌制定委員会を設け、「八塩小学校区域の自然をたえ、児童の好ましい永遠の姿、児童教育の理念を歌い上げたもの」と歌詞を一般公募、選定作業を進めてきたものです。

作曲は、本荘市立南中学校長の豊島重孝先生に依頼しました。

発表会では、斎藤校長のあいさつのもと、豊島先生の指揮で全校児童が三番まで声高らかに斉唱。八塩山や高瀬川を織り込んだ新しい校歌の誕生に、出席者は盛大な拍手を送っていました。

このあと、教育委員長、PTA会長の祝辞があり、最後に児童を代表して六年生の八嶋和人君が「これまで校歌が

なく、遠足や修学旅行などで大きな声をあげて校歌を歌っている人たちを見て、心寂しい思いをしてきた。いま、校歌が出来たことによって他校の仲間入りが出来、やっと一人前になったような気がする。新しい学校が出来、新しい校歌を歌えるぼくたちは幸せ者だ。八塩小の校名と校歌に恥じない、りっぱな子供になることを約束する」と喜びのこぼれを述べ、出席者から大きな拍手を受けました。

キラリ光る経営視察

町農業後継者研修バス 宮城・山形で二日間

おおむね三十五歳未満を対象とした町農業後継者研修バスが、三月三日、四日の二日間、宮城・山形両県下五市町で行われました。

この研修バスは、県内外の農業の実情を見聞することによって農業人としての視野を広め、それぞれの経営を見直す機会にするとともに、お互いの意見や技術を交換し合うと、町農業総合指導センターが実施したものです。農業青年十六人と町、農協

の関係職員で構成する一行二十人は、年商一億円を越すシメジ栽培に取り組んでいる五人グループや育苗ハウスを利用したタラの芽栽培、消費装置付ハウスでの野菜づくり、肉用牛繁殖肥育センターなどを現地視察。企業的感觉を持ち、キラリと光る農業経営を実践している生産者に対し、販路確保や流通対策、運転資金対応などについて、具体的に突っ込んだ質問を寄せ、活発な意見の交換を行っていま

した。
水田利用再編対策の実施や農畜産物価格の低迷など、厳しい農業状況下にあつてプロの農業人を目指す青年たちは、この一泊二日にわたる県外研修で、自己の経営確立に向けて何かしらの指針を得たようであることが期待されるころです。



後田随想



税務課長 森川昭児

るとともに、老人の医療費を国民が公平に負担しようというのが主な狙いです。同制度という保健事業は、本町では皆検診事業等で実施してきており、今後、事業の組み合わせを検討し、町民の皆さんに手数料のかからないよう工夫、実施したいと考えています。昭和五十七年度町国民健康保険事業会計決算見込みによりますと、医療費支払額は三億五千二百万円になるようで、五十四年度からは微増傾向にあり、病気の早期発見・早期治療、健康保持増進の意識が、町民の間で高まってきていることがわかります。

周知のように、町では、未給水地区と給水量不足の解消を図るため、五十七年度から三カ年計画で、東由利水道拡張事業を実施しています。総事業費は九億九千万円余りを見込み、五工区八部門に分け発注しています。五十七年度には二億八千七百万円で、送・配水管敷設工事の約六割を施工しました。

工事期間中、通行される皆さんにはご不便をおかけすることもあると思いますが、早期完成を図るため、よろしくご協力をお願いします。(前任課長・四月一日付で異動)

恵さんが特選

第12回冬休み読書感想文コンクール 入賞に朋美さん(二年)

県よき本をすすめる会と県児童会館が主催する第十二回冬休み読書感想文コンクールで、東由利中一年阿部恵さんの作品「朋子よ永遠に」が、見事特選に輝き毎日新聞秋田支局長賞を受賞、同中二年長谷山朋美さんの作品「沈黙を讀んで」が、入選に選ばれました。



一人恵さん(二年)の特選

人、恵さんが特選に選ばれたものです。恵さんの作品は、「十五歳の絶唱」と題する、ある日突然、骨肉シユという不治の病に襲われながらも、明るく笑顔を忘れずに、けん命に生きようとしたひとりの少女の闘病日記を讀んだ感想を綴ったものです。

同コンクールには、小学生千百二十九点、中学生二百十二点の応募があり、厳しい審査の結果、中学生ではただ一人恵さん(二年)の特選とされた。他の特選三編(小学生)、入選十九編(うち中学生四編)とともに、県よき本をすすめる会発行の「杉の子文庫十二号」に審査評とともに収録され、四月上旬に県内の小・中学校に贈られることになっています。



営林局長賞に輝いた八杉会製作のダイニングセット

八杉会が営林局長賞

第25回 県優良家具展

むくな点が高く評価

県内の優れた家具を一堂に集めた第二十五回県優良家具展が、三月十日から十五日まで、秋田市の本金デパートで開かれ、

営林局長賞に輝いた八杉会製作のダイニングセット

審査の結果、本町の東由利工芸・八杉会(遠藤直志会長、八人)製作のダイニングセットが見事、秋田営林局長賞に輝きました。同家具展は、県産家具の良さを消費者にPRするとともに、業者相互の加工技術の向

上を図ることを狙いとして、県家具工業会など五団体が共催しているものです。今回出品されたのは、家具部門、小物部門合わせて三十メーカーから三千五百三十九点。知事賞に次ぐ営林局長賞を受賞した八杉会のダイニングセットは、杉の間伐材、伐根材を活用したテーブルとイス(二人用、一人用)、食器棚の四点セット。天然素材志向の時流にマッチし、値段も手ごろで、木目が見え、単

純な造形のなかに木肌のぬくもり、やさしさが伝わるむくな点が、高く評価されたといえます。小径木や間伐木の活用が課題となつている林業情勢下にあつて、今回の受賞は、八杉会はもちろん、生産林家にとつても朗報であり、森林面積が七・二・三%を占める本町の地場産業振興発展にも大きな影響を与えるものと、関係者は期待を寄せています。

小松第一分団長に

永年勤続功労章

町消防団に竿頭綬

昭和五十七年度消防功労者表彰式が、三月十一日県正庁で行われ、佐々木知事から本町消防団に竿頭綬が授与され、第一分団長の小松正幸氏(高戸屋)に、消防庁長官からの永年勤続功労章が伝達されました。



消防庁長官から永年勤続功労章が贈られた小松第一分団長

小松分団長は、昭和二十九

由佳さんに(蔵小)に奨励賞

全日本学生児童発明くふう展 六人が入賞

年に玉米村消防団員となつて以来現在まで、二十八年以上にわたつて部下団員の育成指導と大火予防思想の普及、消防施設の充実に貢献してきた功績が認められたものです。また、本町消防団は、防災思想の普及と消防力の拡充強化を積極的に推進し、災害防衛に努め、民生の安定に寄与していることが認められたものです。



表彰状と竿頭綬を手に喜びの佐藤団長と石渡副団長

第四十一回全日本学生児童発明くふう展の入賞作品がこのほど発表され、本町児童は、惜しくも特賞入賞はならなかったものの、蔵小五年大日向由佳さんの「追突防止用反射板」が県内でただ一点、発明協会奨励賞に輝き、五人が入選の好成績を収めました。同展には、全国から約十万点の応募があり、地方審査を

物引”もうけ話”にご用心! 手を出さぬが賢明

増しています。一般の消費者にとって海外商品の取引は投機と同様、常に危険を伴つており、刻々と変わる海外相場を確認することは極めて難しく、利益を得ることはほとんど出来ません。

一般の方は、このような取引に参加しないことが賢明です。電話やセールスマンの勧誘には、あいまいな返事をせずに、はっきりとことわりましょう。



あま、言葉にご注意

小松総務課長 畑山産経課長 が退職

長い間ご苦勞さまでした

長年役場の職員として精勤してこられた小松耕之助さん(総務課長)、畑山良一さん(産業経済課長)は、三月三十一日をもって停年退職されました。

小松さんは、昭和二十二年六月に旧玉米村職員に奉職されて以来三十六年間、一貫し



小松耕之助さん



畑山良一さん

て総務課関係の事務に従事され、四十二年十月からは総務課長兼選挙管理委員会書記長として手腕を発揮されてこられました。

畑山さんは、昭和三十九年四月に東由利村職員に奉職されて以来十九年間、一貫して産業経済課関係の事務に従事

され、五十年四月からは産業経済課長兼農業委員会事務局長として活躍されてこられました。長い間、ほんとうにご苦勞さまでした。

東由利中・老方小

二人のおばさん退職

学校のおばさんとして、子供たちや地域の人たちから親しまれてきました東由利中の阿部フサヨさんと老方小の高橋サヨさんは、三月三十一日をもって停年退職されました。昭和三十六年四月、阿部さんは旧下郷中の、高橋さんは老方小の用務員となつて以来二十二年の長い間、誠実誠意をもって勤務され、その献身的な奉職に関係者から深く感

東由利の地名

坪倉・赤倉

= 34 =

つぼくらは坪倉と表記されているが、これが元からのものか疑わしい。この漢字からだど土が肥えていて、一坪から多くの穀物などが収穫できるので、まるで倉のようなところだとの解釈もできないわけでないが、あまりに直訳的でどんなものか。

東由利の地名の多くは、自然の地形・現象、あるいはそこに生育する動植物などからつけられた(呼ばれた)と推理できるのが多いようである。

これは交通の便もよくない上、人の住みつくのが一度に多くなつたのでなく、一軒とか一人とかというように、全くの自力で苦勞しながら、小しずつ切り拓き住むようになったことからと思われる。

坪倉・赤倉

坪倉は舟打場から館合新田に通ずる道(かつては雄物川でなく子吉川沿いの由利町に年貢米を運ぶ重要な道路だった)が通っているが、舟打場からいくと坪倉口の地名で、両岸が黒の岩はだと滝壺が見られる。新田側も入口が狭く、

中にいくと見通しのきく坪倉の沢(壺と似ている)となる。ツボ(壺)の語源を大言海は「漆器または陶器の体円く、口の窄みたるもの。ツブ」と説明している。このことからツボはツボム・ツボマル・ツボミ(蓄)などと同関係ある語であろう。ちなみにアイヌ語のchi(舟)にのる意は、坪倉を出てからの舟打場と関係あるものか興味深い。赤倉は舟打場の南端から須郷に通ずる沢だが、土はだや岩はだからの名と思われる。(文・畑山昭一)

謝されています。二人ともほんとうにご苦勞さまでした。

町職員異動

町一般職の人事異動が四月一日付で次のように発令されました。カッコ内は前任職等。

【総務課】

・課長 嶽石文男(税務課長)

・総務係 遠藤晃(任用)

【企画財政課】

・企画係(兼財政) 小松秀穂(産業経済課農務係)

【税務課】

・課長 森川昭児(住民課長)

・税務係長 青木和雄(住民課保険係(国保))

【住民課】

・課長(兼福祉係長事務取扱) 小松文介(議会事務局)

・福祉係(民生委員・生活保護・福祉一般) 高橋義勝(同係(戸籍・児童手当・保育所))

・同係(戸籍・児童手当) 小松信記(総務課総務係)

・保険係(国保) 小松敏(同課衛生係)

・衛生係(老人保健・衛生) 畠山基保(企画財政課財政係(兼企画))

【産業経済課】

・課長 榎野忠義(住民課参事(兼福祉係長))

・農務係 小野長清(教育委員会社会教育係)

【議会へ出向】

・議会事務局長 八嶋保(税務課税務係長)

【教育委員会へ出向】

・八嶋保(税務課税務係長)

遠藤正人(任用)

教職員異動

県教職員の定期異動により本町関係では次のとおり異動になりました。カッコ内は前任校等。◎は校長、○は教頭。(敬称略)

◎八塩小 ◎塚本ワカ(上川大内小)・小松昭作(東由利町教育委員会社会教育主事)

○齋藤光正(鶴舞小)・村上重晃(西目小)・畑山栄子(蔵小)・熊谷加代子(養教、亀田小)

○老方小・斎藤新(金浦小)

○蔵小 ◎畑山昭一(県教育委員会)・小松幸子(下川大内小)・小笠原琴子(小友小)

・斎藤知子(大沢郷西小)

○大琴小 ◎渡辺昭次(河辺中)・斎藤謙二(西目小)・久保田尚美(任用)

○東由利中 ◎畠山悟(本荘北中)・柏原正人(矢島中)・真坂要智(同中)・椎川忠夫(主事、本荘北中)

【転出等】

○退職 ◎齋藤治三郎(東由利中)・森川栄子(八塩小)・武田千代(蔵小)・佐藤弘之(八塩小講師)

○転出 ◎齋藤正男(八塩小)・平沢小へ・畠山隆(同小)・鶴舞小へ・堀鉄三郎(同小)・東由利町教育委員会へ・工藤優子

(同小養教) 亀田小へ・沢田敏子(老方小) 新山小へ ◎千田隆(蔵小) 仁賀保中へ・小西逞(同小) 新山小へ ◎小笠原昭(大琴小) 西目小へ・佐藤清男(同小) 西目小へ・熊谷和子(同小) 鶴舞小へ・小松哲男(同小講師) 前郷小へ・莊司雄二(東由利中) 象潟中へ・猪股知子(同中) 本荘北中へ・山崎博樹(同中主事) 小友小へ

注：町内間の異動は、転入欄を参照。

◎本荘高校下郷分校

【転入】

○石川善一郎：由利高から

・藤田清子：任用(能代北高から)

【転出】

○小野弘三：平鹿高へ

・斎藤隆：矢島高へ

・佐藤紀：由利工業高へ

・吉田道子：秋田中央高へ

・鈴木緑

警察官異動

県警察官の定期異動により本町駐在の警察官が、次のとおり異動しました。

【転入】

・鶴田光義：東由利警察官駐在所(老方)(警視庁より)

【転出】

・長野谷清春：本荘署へ(東由利警察官駐在所(老方))

4月(卯月)のこよみ

曜日	行	事
1 金		
2 土		
③ 日		
4 月	町内各小学校入学式	
5 火	東由利中学校入学式	
6 水		
7 木		
8 金	一歳六カ月児健康診査(12:30, 有鄰館)	
9 土		
⑩ 日		
11 月		
12 火	民生委員協議会(13:30, 有鄰館)	
13 水	乳児健康相談(12:30, 有鄰館)	
14 木		
15 金	三歳児健診(12:30, 朋楽荘)	
16 土		
⑬ 日		
18 月	妊婦健康相談(12:30, 有鄰館)	
19 火		
20 水	三種混合予防接種(14:00, 有鄰館)	
21 木		
22 金		
23 土		
⑭ 日		
25 月		
26 火		
27 水		
28 木	町愛有会総会(9:30, 有鄰館)	
⑮ 金	天皇誕生日	
30 土		
摘要	30日 固定資産税(1期) 軽自動車税(全期) 納期限 河川美化月間	

おしらせ

町の概要

人口総数	6,279人
うち男	3,099人
うち女	3,180人
世帯数	1,435戸
面積	148.51km ²
(58.2.28現在)	

青年海外協力隊員の募集説明会開催

世界各地の開発途上国の国づくりに参加する青年海外協力隊員を募集しています。

- ◇募集期間 4月15日～5月31日(締切当日消印有効)
- ◇応募資格 20歳以上原則として35歳までの男女
- ◇派遣期間 二年間
- ◇職種 農林水産・加工・保守操作・土木建築・保健衛生・教育文化・スポーツ

ゴミ収集車を更新

後部ドアが自由に上下

町では、昭和四十八年度の広域ゴミ処理事業開始と同時に、島の斎藤幸益さんに委託してゴミ収集をしてくれていますが、先ごろ、この収集車が更新されました。(写真)

新しい収集車は、二ト積みダンプロトラックで、レバー操作により、後部ドアが開けた状態で自由に上げ下げでき、重いものでもラクラク荷台に



あげることができます。このしくみの収集車は現在、県内

四月三十日任期満了に伴う町農業委員会委員の選挙が、次により行われます。

◇告示月日 4月16日

◇立候補届出締切り 4月

農委選挙は4月23日

立候補届出締切りは17日午後5時

四月三十日任期満了に伴う町農業委員会委員の選挙が、次により行われます。

◇告示月日 4月16日

◇立候補届出締切り 4月

◇開票日時、場所 4月23日

午後七時、役場会議室

- ◇投票所
- ・第一投票区 八塩小学校
- ・第二投票区 住吉会館
- ・第三投票区 袖山分館
- ・第四投票区 大蔵館
- ・第五投票区 老方小学校
- ・第六投票区 克雪管理センター
- ・第七投票区 高瀬館

亡父民一郎氏の香典返しとして金一封が届けられました。故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

慶弔だより

2月21日～3月20日受付 (敬称略)

〇いぶ声

- 須田彰子 新町 清隆 長女
- 工藤勇輝 中の沢 正悦 二男
- 高橋拓也 智者鶴 義夫 二男
- 阿部秀人 蔵 次雄 三男
- 遠藤晃人 野田 晃 長男
- 遠藤正直 宿 実 二男
- 小松耕樹 大琴 次男 長男
- 村上慎悦 家の下 正勝 長男

〇結婚

- 畠山 栄雄 横 茂 沢
- 阿部 美奈子 横 渡

・お悔み申し上げます

- 阿部ミツエ 沼 87歳
- 浅田民一郎 舟木 78歳
- 小松 スミ 下通 67歳
- 赤川雄次郎 横小路 81歳

この一票 住みよい郷土の願いをこめて

秋田県知事 秋田県議会議員

選挙投票日は4月10日です

みんなそろって投票しましょう!

(入場券を忘れずに)

